

当会会員同士のカップブル

第1号が誕生しました！

当会会員同士のカップブル第1号が誕生しました。富田淳会員（昭和62年度）と藤野恵会員（同）写真です。すでに結納を交わし、12月7日、都内のホテルで挙式する予定になっています。

二人は、わが部の特別選抜第1号鈴村会員と同期で、大学2年の時から親交を深め、卒業後も交際を続けてきました。



藤野会員は帰郷した際に富田会員を両親に引き合わせるなど、家族ぐるみの付き合いから愛情を深め、めでたくゴールインに漕ぎつけることになりました。

藤野会員はファッショング関係の雑誌の編集者をしており、結婚後も仕事を続け、キャリアウーマンを目指すことになります。新居は都内にある日銀社宅になる予定。

川名監督がフェンシング協会理事に就任

川名宏美監督が日本フェンシング協会の理事に就任しました。会長推せん理事の枠が空いたため、東京都協会が監督を推し、今春の理事会で承認されたものであります。あとは全国評議員会開催日時は未定にその旨を報告するという事務的な手続きが残っていますが、公認コーチ育成担当として、すでに理事としての活動を

今年度の夏期合宿を左記により行います。ふるつてご参加下さい。

合宿案内	
①日時	9月7～16日（9泊10日）
②場所	群馬県利根郡片品村東小川二二五
③	「民宿くらた」TEL〇二七八一五八一一四四七
※問い合わせ、申し込み	はマネジャー土屋敬まで、TEL〇三一三三〇二一八六〇五（部室）〇三一三四八四一九一（自宅）

新人紹介



①天野祐介（あまの・ゆうすけ）②神奈川県立厚木一文2年④関東大会（団学部 学年④戦績⑤一口コメント）

①田島誠也（たじま・ともや）②東京・早稲田③法2年④学年別個人3位、新人戦優勝（団体）関東選抜出場⑤力を合わせて部を盛り上げたいと思います。

①山本直人（やまと）②埼玉・早大本庄なおと）②埼玉・早大本庄③法2年④特になし⑤高校では2年目で辞めてしまつたので、ブランクを早く取り戻したいです。

①保谷公司（ほうち・こうじ）②東京・早稲田③教育1年④学年別個人3位、関東選抜出場⑤左利きの利点を生かしたい。

①横山美弥子（よこやまみやこ）②神奈川県立上鶴間③人間科学1年④関東大会個人3位、インターハ体3位⑤女子部員が少ないのでもっと増やしたいと思います。

始めております。これは文部省が音頭をとつて実施を急いでいる公認指導者制度のフェンシング版で、指導

オリンピック選手となり、華々しくデビューしたものです。しかし2～3年生時は壁につき当たり、全日本選手権でも2回戦落ちするなど低迷を続けました。高校生選手から大学生選手への脱皮がスムーズにいかなかつたからです。そこで本人が考えたのは海外武者修業。今年の2月から3月にかけて1か月間、統一ドイツ国（ボン）にフェンシング留学をしました。これは1年後輩の藤倉剛（教育学部3年）も同行しましたが、市内のスポーツクラブに宿泊まりしてフェンシングの練習に明け暮れる毎日。その間に2度、ヨーロッパで行われた国際大会に出場するなどして腕を磨いてきました。

全日本での優勝は、帰国して3日後のこと。まさに留学の成果と

分なご援助をいたさ、心から感謝しております。お陰様で全日本

で勝ち、ご期待にそうことできました。

私個人のことより、主将としてチ

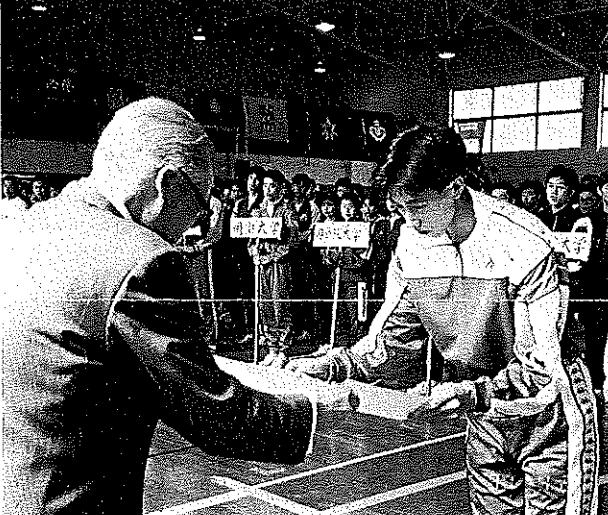
ームを1部復帰へと導くことがで

きなかつたのが残念でなりません。

先輩の方にも深くおわび申し上げます。

稻光会報

1ページ…出野主将特別表彰
2・3ページ…リーグ戦入替戦詳報
4ページ…川名監督协会理事に就任
ページの窓



リーグ戦開会式で、全日本優勝を特別に表彰され、滝口宏会長（左）から表彰状を受ける出野主将

決勝戦の相手は永野（中大4年）。前年度のチャンピオンで、実力ナンバーワンと目される強豪です。全日本2連覇の野望に燃えて出野と対決。しかし出野の動きは鋭く、常に先手をとつて動き、10～16と全く永野にツケ入るスキを与えずには快勝、初の栄光を手にしました。当会からの日本チャンピ

残念ながら入替戦はまたも拓大に敗れ、念願の一部復帰はなりませんでした（詳報は2・3面を参考）。そこで今回出野晴信主将（人間科学部4年）の朗報で一面を作つてみました。出野主将は3月、石川県で行われた全日本選手権で優勝、さらに世界選手権代表につて一人孤軍奮闘、おおいにワセダの名を高める活躍をしてくれたのです。

決勝戦の相手は永野（中大4年）。前年度のチャンピオンで、実力ナンバーワンと目される強豪です。全日本2連覇の野望に燃えて出野と対決。しかし出野の動きは鋭く、常に先手をとつて動き、10～16と全く永野にツケ入るスキを与えずには快勝、初の栄光を手にしました。当会からの日本チャンピ

オンは昭和29年に竹村晃会員がエントリを制して以来、実に36年ぶり2人目の快挙、フルーレでは初めてとすることになります。出野は9勝2敗で2位。文句なし

に代表の座を獲得しました。世界選手権最終

の永野でした。今や日本のフェンシング界は出野・永

野時代になつたといつてもよいよう

です。世界選手権は7月13日から20日まで、ブダペスト（ハンガリー）で行われました。

出野主将は3年前、前橋英高から推せん入学で入部したのですが、その年の5月、ソウル五輪最終選考会で4位になりました。

出野主将は3年前、前橋英高から推せん入学で入部したのですが、その年の5月、ソウル五輪最終選考会で4位になりました。

（出野晴信主将の話）ドイツ留学に際しては、稻光会の皆様から過

分なご援助をいたさ、心から感謝しております。お陰様で全日本で勝ち、ご期待にそることができたとホッとしております。しかし

私個人のことより、主将としてチ

ームを1部復帰へと導くことがで

きなかつたのが残念でなりません。

先輩の方にも深くおわび申し上げます。

リーグ戦 詳報

男子・2部優勝は
したものの…
女子は2名ながら
4部で3位と健闘



① 伏兵ぶりを發揮した土屋(中央に立っている)



② 痛恨のポイントを失った藤倉(左)



③ 多数応援のOBたちの声援も届かず…

ツメの甘さが今後の課題か!?

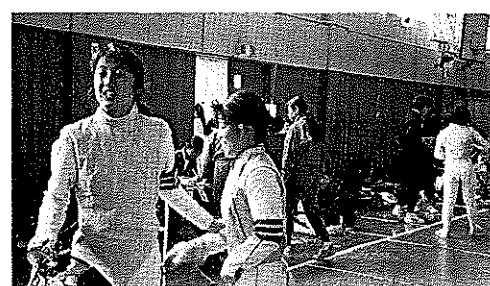
「今年の目標はたった一つ、入替戦に勝つこと」。シーデン初めに部員たちとこく立ち直ったものの、藤倉野が1ー4で敗れる番狂わせがあり、これでベンチはすっかり動転し、ズルズルと4連敗。出野、山岸は早く立ちはだり、リーグ戦。確かに早大の実力は2部リーグの中でも頭一つ抜きん出ていました。フルーレの立ち上がり、対国学院、東農、国士にいれども15勝1敗と圧倒的な強さを見せての3連勝。その実力のほどを誇示したのでした。しかし、甘いんですよね、現役は（とうより、今の若者は）。4戦目の対明大戦に10勝6敗と、相手に勝ちをサービスしきすぎたなと思つたら、最後の立大戦ではよもやの敗戦。この試合、トップの出野が1ー4で敗れる番狂わせがあり、これでベンチは

らず、藤倉全敗、土屋1勝
4敗と足を引っぱつての負け試合になつたものです。
エペでもあつたんですよ、似たようなケースが。対国士戦です。相手チームには、今春から留学生となつた中國人選手武芳君（3年前の全日本エペ優勝者）が出席したのですが、これはさすがに強い。早大勢は4人とも枕をならべて討ち死にてしましました。これですからリズムを狂わせちゃつたんですね。他の、負けたのは必ずしも國士選手にも星を落すなどして6勝10敗と負け試合。これが響いて、最終の対立大戦には、かつたものの総勝ち数で及ばず2位に甘んずる結果になつたのです。入替戦での「痛恨の1ポイント」にはこんな下地があつたわけです。

その辺をしつかり補修できなかつた点に、指導者とし

リーグ戦成績		監督	
▽フルーレ		●早	大7-9
○早	大15-1	○早	大15-1
○早	大10-6	○早	大10-6
立大4勝1敗③東	立大4勝1敗③東	立大4勝1敗③東	立大4勝1敗③東
「順位」	①早大4	①早大4	①早大4
2敗④明大3勝2敗	勝3敗、藤倉20戦	勝3敗、藤倉20戦	勝3敗、藤倉20戦
大1勝4敗⑥国学	土屋20戦12勝8敗	土屋20戦12勝8敗	土屋20戦12勝8敗
「個人成績」出野	▽サードル	▽サードル	▽サードル
1敗(最多勝)、山	○早	○早	○早
○早	大13-3	大11-5	大11-5
○早	大14-2	大14-2	大14-2
大4勝1敗③明大	【順位】①早大5	【順位】①早大5	【順位】①早大5

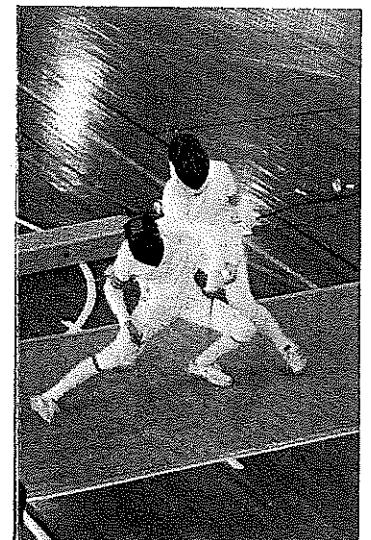
▽フルーレ	リーグ戦成績
○早	大15—1国学大
○早	大15—1東農大
○早	大10—6明治大
●早	大7—9立教大(①)
【順位】	①早大4勝1敗②立大4勝1敗③東農大3勝
大1勝4敗	④明大3勝2敗⑤国大3勝
【個人成績】	出野20戦19勝
1敗	山岸20戦19勝
最多勝	(最多勝)
勝3敗	藤倉20戦14勝6敗
土屋20戦12勝8敗	
▽サードル	
○早	大14—2国学大
○早	大11—5立大
○早	大11—5明大
○早	大13—3国士大
○早	大14—2東農大
【順位】	①早大5勝②東農大4勝
大4勝1敗	③明大3勝2敗



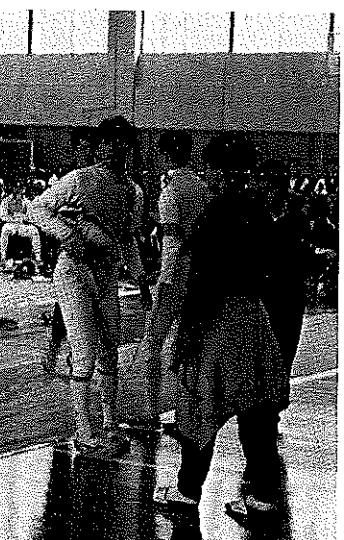
⑥ 2人で健闘3位となった横山(左)と高田

て責任を痛感しているし、
いです。

▽フルーレ
女子リーグ戦成績



⑤ 主将・出野のエベ(左)



④ 3種目に健闘した山岸(左)

まさに痛恨の1ポイント! 入替戦フルーレは8勝7敗とし、最終戦も4-0とリード。九分九厘勝ったと思われた試合ですが、そこから拓大に5ポイント連取されて逆転負け。被突破数の差でフルーレを落し、サーブルに勝ったもののエペで負け、1勝2敗でまたも拓大の前に涙を飲む結果となってしまいました。リーグ戦の詳報と合わせてご覧下さい。

入替戦 詳報

信じられない光景でした。フルーレの最終戦。それまで1勝2敗と振るわない藤倉のポイントが面白いように決まったのです。「アレ！」が掛かって、突きにいけばランプが点灯。ベン

の耳の方特に相手にフレオリティー（優先権）がある時の対処のしかたに一日でも若干上回っていました。ただし、1部リーグのスピードに戸惑い、前半は一時2—4とリードされるなど苦戦を強いられました。しかし拓大の単調なテンポに慣れると、一つ先を読んでの積極策が功を奏し、後半は6連勝して一気に勝敗を決する快勝でした。特に4番手の山口（学院出身）が立ち直っての連勝と勝利にはすみをつけたのが大きな収穫。

拓大側からアピールがあり、主審が拓大・坪の剣をチエツクしたところ、ボン・ヘッドが飛んでいて、突いてもランプが突かないことが判明。判定は無情にもやり直し。緊張感から解放された土屋だけに、気球の整理がつかないまま2ボイント連取されてまさかの逆転負け、拓大側のヘッドが故障せず双方のランプが点灯しても土屋の勝利は動かなかつたケースだけに、これがも痛恨の1ボイント。これで拓大は勢いづき、逆に早大側には焦りが出て、試合の流れがすっかり変わつてしまつたのです。最後まで1本に泣かれる対拓大2連敗になつてしましました。